



中年かつ選択されていない 中堅研究者のつばやき

世界の富の82%は1%の富裕層に集中しているそうです。富…ではなく、税金からくる運営費交付金や研究費も同じ構図なのではないかと感じたことはありませんか？ “独立行政法人化”や“選択と集中”の名の下に、今の大学における教育・研究環境は、現代社会の縮図ですね。これまでその是非を、多くのデータと証拠をもとに発言、発信されている人は数多くいらっしゃるようで、その内容は同じ方向（すなわち同じ結果を提示している）とお見受けします。科学的な分析はそちらに任せて、本コラムでは大学に在籍する一人の中堅研究者として、自分の周りから見て取れる変化を個人的につぶやきたいと思います。

まず独立行政法人化によって、教養と良識のある大学は消え去ったように思います。総仕上げとしての国立大学の統合が本格的に始まろうとしています。ガバナンス、クロアポ、インセンティブのような言葉を巧みに使うこと、結論は決まっている会議、証拠取りのための莫大な量の事務資料の配付および書類作成などにより、大学の理念は特に近年短期間かつ強硬にねじ曲がりました。これまでこつこつ積み上げてきたものは一体何だったのかといろいろな局面で考えさせられます。時間をかけてよく吟味し、様々な方面から意見を聞き、熟考してからではないととても怖くて踏み出せないような内容が、数百ページにわたる資料の所々に散りばめられており、そのような資料を矢継ぎ早に送信したのち、「～までに意見がなかったら了承したものとします」という脅迫じみたメールもやってきます。重要なことってじっくり考えなくてはいけないのでは？ そういえば国民があのとときに考えさせられた原発事故後の原発政策に関するパブコメでの意見聴取は、そのほとんどが反対意見で埋め尽くされていましたが、全く指針に影響はありませんでした。結果ありきで証拠取りの意見聴取という構図には真摯であればあるほど疲れます。

次に選択と集中によって研究費が大きく変わったと思います。莫大な研究費は選択された（一体誰にどういう理由で??）ごくごく一部の研究者へ、様々なルートやキャッチー（トリッキー）な言葉遊びで結局同じグループとお見受けする人たちに集積され続けているように見えます。そ

れでは選択されなかった一般の研究者の多くの人が恩恵にあずかり、最も多くの成果を生み出していると考えられる基盤研究Cなどはどうなってきたのでしょうか。確か昔は2年で500万でした。今は3年から5年で500万。えっ750万ではなくて?? 一体何故? かなりの減額です。勿論満額もらえるなんてことがないうえに、昔に比べて消費税があらゆるものに付加されているためにさらに研究費が大きく目減りしています。間接経費? いやあ、それは大学当局にごっそり持って行かれています。一方、研究にかかるお金は格段に高くなりました。これまであまりかからなかったようなことにまでお金を課してくる大学の施設や機器、器具の利用、廃棄に至るまで様々なものに課金状態です。すでに博士・修士・学部学生の教育に多くの年数をかけ、論文も多く執筆し、国際的な学会でも発表を重ねているシニアな研究者がどうしてこんなに憂き目を見なくてはいけないのか、とても疑問に感じます。研究室に配られる運営費交付金に関してはもう言葉もありません。中間層への打撃たるや半端ない状態です。

そして研究者たちの血と汗と涙の結晶である論文はどう評価されているのでしょうか? それは誰もが感じていることだと思いますが日本の研究力の失速という記事にも取り上げられる事態を引き起こしています。そりゃそうです。日本の研究は裾野が広くかつそれぞれがレベルの高い研究スタイルだったにもかかわらず、兵糧攻め方式で裾野を極端に狭め、さらに大学改革でさらに貴重な時間を激しく奪っています。研究と教育ができる最低限度の資金と時間を取り上げられたら、それはもう一定量のお金と時間がないと続けられない研究は論文レベルまで到達できなくなりますし、学生の教育も大きく支障をきたします。今大学は時間・お金・良識、全てがデフレスパイラル真っ只中です。

特殊に選択された学校に8億円を官庁主導で値引きし、重要でかつ存在した資料を国会答弁で存在しないと主張し不起訴になった森友問題。設置審が問題ありとしたはずなのにこれまた特殊に選択され何故かあれよあれよと開校された加計問題。最近では自分の息子を私立の医学部に特殊に選択してもらうために公的資金をその大学に投入した事件もありました。その調査過程で男子学生を特殊に選択させるために、女子学生への一律な差別的入試が行われていたという事件が明るみにでました。本当に怖いのは、多くの選択されては来なかったけど真面目にこつこつとやってきた人たちが、様々な面で報われず、矛盾がまかり通る状況を目の当たりにした時に抱く感情とその連鎖なのかもしれません。科学界における傷は相当深いと感じます。

(カイギョ丸)